

米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する米軍及び北海道防衛局によるブリーフィングの開催について

【米軍への質問】

- ① 訓練期間中に感染者が発生した場合、連絡体制など具体的な対応について教えていただきたい。

〈回答〉

新型コロナウイルス感染症への対応については、公衆衛生の観点から、米日間の合意に基づき、当軍の医療機関と地元の保健所との間で、感染者の行動履歴の追跡など必要な情報共有を行い、感染拡大防止のために緊密に連携することを確認している。これまでも、当軍から適切に情報共有を行っており、今回の訓練についても同様の措置をとる。

また、訓練関係者が新型コロナウイルスに感染した場合、当軍から北海道防衛局現地連絡本部を通じて、お知らせできる情報を関係自治体等へ提供する。

- ② 何故コロナ禍のもとで訓練が必要なのか。日米双方で収束への取り組みが優先では。

〈回答〉

訓練移転については、「再編の実施のための日米ロードマップ(平成18年5月)」に基づき、二国間の相互運用性の向上と米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減するため、2006年度以降実施している極めて重要な訓練であり、安定的な実施が重要と考えている。

いずれにしても、訓練移転の実施に当たっては、日米双方において新型コロナウイルス感染防止対策については、必要な措置を十分にとった上で実施する。

- ③ コロナに関する情報は、「日米間の合意」に基づき…と記載されてあるが、「日米間の合意」とは何か。

〈回答〉

2013年の日米合同委員会で承認された覚書「在日米軍と日本国の衛生当局間における情報交換について」である。米軍としては、当該合意に基づき、適切に対応していく考えである。

④ 訓練中に感染者が出た場合の対応について、日本側による検疫で対応していただけるのか。

〈回答〉

今回の訓練においては、米軍の医療担当者が同行し、米軍・自衛隊の双方において所要の医療・衛生体制を構築するとともに、公衆衛生の観点から、日米間の合意に基づき、米軍の医療機関と保健所との間で、感染者の行動履歴の追跡など必要な情報共有を行い、感染拡大防止のために緊密に連携してまいります。

いずれにしても、新型コロナウイルスに感染した場合は、地元の保健当局と緊密に連携し、適切に対処する。

【北海道防衛局への質問】

① 沖縄の負担軽減に関し、訓練移転が寄与しているのか。沖縄県民の実感を含めて報告してほしい。

〈回答〉

嘉手納飛行場周辺の更なる騒音軽減を図るため、平成18年5月の「再編実施のためのロードマップ」に基づいた訓練移転を行うことにより、本来であれば、嘉手納飛行場周辺で実施予定であった航空機による訓練の一部を移転させたことにより、同飛行場周辺の住民に対する騒音の影響が一定程度軽減されていると認識しています。

防衛省としては、今後とも米側に対し、飛行場周辺の騒音軽減が図れるよう一層の協力を求めていくとともに、かかる訓練移転を積み重ねていくなど、可能な限り沖縄の負担軽減に努めてまいります。

② 訓練に参加する自衛隊員全員のPCR検査を行うこと。

〈回答〉

PCR検査の受検は行いません。ただし、感染防止対策として、大臣通達に基づきマスク着用、ソーシャルディスタンスの確保、消毒の徹底など必要な措置を行います。

また、本訓練の間、特に千歳基地に所属しない隊員は基地からの外出は行わないものとし、部外と接触することがないようにします。

③ 今回の訓練には、小牧基地、入間基地、美保基地の自衛隊が参加することとなる。他基地の自衛隊の参加は初めてだが、その理由について確認したい。

また、今後も同じ運用をするのか。

<回答>

今般の訓練では、必要な訓練の一環として、航空自衛隊小松基地のC-130、入間基地のC-1及び美保基地のC-2輸送機が参加し、戦闘機戦闘訓練や地上給油訓練を行う計画です。

輸送機が当該訓練に参加することにより、航空機部隊の迅速な展開に係る戦術技能及び日米間の相互運用性の向上に資するものと考えています。

なお、今後の訓練移転の運用については、日米間において検討、調整を行い、実施されるものと承知しています。

④ 米軍人の宿泊場所については、セキュリティ上答えられないとのことだが、どこのホテルに宿泊するのか確認したい。

また、米軍人がホテルから不要な外出をしていないかどうかの、防衛局としてのチェック体制について確認したい。

<回答>

宿泊先については、セキュリティに関する事柄でもあり、公表は差し控えさせていただきます。

また、当局職員が、市街地等を巡回するなどして把握できる範囲で、米軍人の外出状況の確認に努めているところです。

⑤ 学校などは、新型コロナウイルス対策として、換気のため窓を開けている状態なので従来より騒音を感じやすい状況である。日米問わず、市街地や学校などの上空飛行については、極力避けるよう特段の配慮をお願いしたい。

<回答>

航空自衛隊千歳基地では、平素から航空機の運用に際しては、市街地への騒音の影響を局限し、地元の皆様への影響が最小限となるよう最大限に配慮し、訓練を行っているところです。

今般の訓練移転においては、地元自治体との「訓練移転に関する協定書」にあるように、米軍は航空自衛隊と同様の運用になると承知しています。

防衛省としては、訓練実施にあたっては、引き続き、地元の皆様に与える影響が最小限となるよう適切に対応してまいります。